

バス停からの 小さな旅



19 バス停「祐泉寺(あまちの森・しょうよう線)」から坪内逍遙の歌碑を訪ねる



▲祐泉寺の境内にある歌碑

中山道沿いにある祐泉寺には、太田出身の偉人・坪内逍遙(1859～1935年)の歌碑があります。文学、演劇、教育など多分野で活躍した逍遙は、仕事の傍らで書画を嗜み、61歳から和歌を作り始めました。

大正11年、逍遙はふるさとへの思いを託した「山樁の歌」を色紙にしたため、祐泉寺に送りました。歌碑には逍遙の字が彫られています。

山樁さけるを見ればいにしへを

幼きときを神の代をおもふ

この木の実ふりにし事ししのばれて

山樁はないとなつかしも

一首目の「いにしへを」の部分は、歌を作った当初は「ふるさとを」としていました。間違いに気付いた逍遙は「ふるさとを」に直して欲しいと手紙を送りますが、訂正されないまま歌は彫られました。二首目は「木の実ふりっこ」という遊びを思い出して詠んだ歌です。

ふるさとへの温かな思いをのせた山樁の歌を、逍遙の友人で歌の師であった歌人・會津八一も称賛したといえます。

静かなお寺の庭で、逍遙の美しい字と歌の世界を味わってみてください。



今回乗車したバス

行き・帰り

あまちの森・しょうよう線
左回り3便

09時24分 美濃太田駅南口

09時27分 祐泉寺

下車後、祐泉寺境内にある逍遙の歌碑を観覧。

祐泉寺を離れて中山道

界隈を散策。

10時33分 祐泉寺

10時35分 美濃太田駅南口



▲坪内逍遙(1859～1935年)